

令和 2 年
1 月 3 1 日

病害虫発生予報 2 月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

農薬危害防止と効果安定のために
土壌くん蒸剤の施用後は、しっかり被覆しましょう。

< 目 次 >

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

促成ピーマン：斑点病	1
促成トマト：灰色かび病	1
促成キュウリ：べと病	2

【その他の病害虫】

イチゴ，促成ピーマン，促成トマト	3
------------------	---

II. 今月の気象予報 4

最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)で確認することができます。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :0299-45-8200

予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/>
フェロモントラップデータ随時更新中

<HP QR コード>



I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

促成ピーマン

1. 斑点病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 1月下旬現在、発病度※（本年値 11.5，平年値 3.9）は平年より高く、発生地点率（本年値 50%，平年値 48%）は平年並である。
※発病度：株ごとの発病程度をもとに算出した数値，最小値は0で最大値は100となる。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高く、日照時間は平年並または少ないと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿条件で発生しやすいため、整枝、暖房、換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。
- ③ 罹病部はできるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ④ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ⑤ 天敵を使用する場合は、影響の小さい薬剤を選択する。

促成トマト

1. 灰色かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 1月下旬現在、発病株率（本年値 8.5%，平年値 0.4%）は平年より高く、発生地点率（本年値 25%，平年値 8%）は平年よりやや高い。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高く、日照時間は平年並または少ないと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿条件で発生しやすいため、暖房、送風、換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。
- ③ 花落ちが悪く残った花弁や罹病部はできるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。

(促成トマト 続き)

- ④ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ⑤ 薬剤散布は、晴れた日の午前中に行う。また、曇雨天が続き薬液が乾きにくい場合は、くん煙剤を利用する。

(令和2年1月31日発表 病害虫発生予察注意報第3号参照)

促成キュウリ

1. ベと病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 1月下旬現在、発病葉率（本年値 7.2%，平年値 0.9%）は平年より高く、発生地点率（本年値 18%，平年値 11%）は平年よりやや高い。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高く、日照時間は平年並または少ないと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。また、収穫終期は株の勢いが衰え、発生が増加する傾向にあるため草勢の維持に努める。
- ② 多湿条件で発生しやすいため、暖房、送風、換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ③ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ 天敵を使用する場合は、影響の小さい薬剤を選択する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量：平年並～やや多い	1月下旬現在，平年並～やや多い発生である。向こう1か月の日照時間は平年並または少ないと予想され，発生を助長する条件である。
	灰色かび病	発生量：平年並	1月下旬現在，平年並の発生である。向こう1か月の日照時間は平年並または少ないと予想され，発生を助長する条件である。
	アブラムシ類	発生量：平年並～やや多い	1月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
	ハダニ類	発生量：平年並	1月下旬現在，平年並の発生である。 気温の上昇に伴って増殖が速くなるので注意する。
促成ピーマン	うどんこ病	発生量：平年並	1月下旬現在，平年並の発生である。向こう1か月の日照時間は平年並または少ないと予想され，発生を助長する条件である。
	アザミウマ類		1月下旬現在，平年並の発生である。
促成トマト	葉かび病	発生量：－	1月下旬現在，県内一部圃場で発生が認められている。多湿条件で発生しやすいため，暖房，送風，換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
	オンシツコナジラミ	発生量：多い	1月下旬現在，平年より多い発生である。 気温の上昇に伴って増殖が速くなるので注意する。

II. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 2月1日から2月29日)

気象庁(1月30日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	10	20	70
	降水量	関東甲信全域	30	30	40
	日照時間	関東甲信全域	40	40	20

[概要]

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

<1週目の予報> 2月1日(土曜日)から2月7日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率70%

<2週目の予報> 2月8日(土曜日)から2月14日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率ともに40%

<3週目から4週目の予報> 2月15日(土曜日)から2月28日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率50%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類^{*}(FRACコード、IRACコード)の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。
※作用機構分類については、病虫害発生予報5月号(平成31年4月25日発表)の防除所レポート参照
- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。